

調査概要

1 調査の目的

札幌市では、子どもが安心して暮らし、健やかに成長するまちを目指して子どもの権利条例を制定し、子どもの権利の保障を総合的かつ計画的に進めるために、「第3次子どもの権利に関する推進計画」（令和2年度～令和6年度）を策定している。

本調査は、子どもに関する大人の意識や子どもの状況を把握し、現計画の検証や次期計画策定に向けた施策検討の基礎資料とするために実施する。

2 調査の実施内容

調査対象	子ども	小学生（10～12歳） 1,632人 中高生（13～18歳） 3,368人
	大人	19歳以上の市内在住者 5,000人
抽出方法	無作為抽出 （住民基本台帳から対象者を抽出）	
配布・回収方法	調査対象者に調査票を郵送。返信用封筒またはウェブ回答フォームから回収。	
調査期間	令和5年12月11日（月） ～令和5年12月26日（火）	

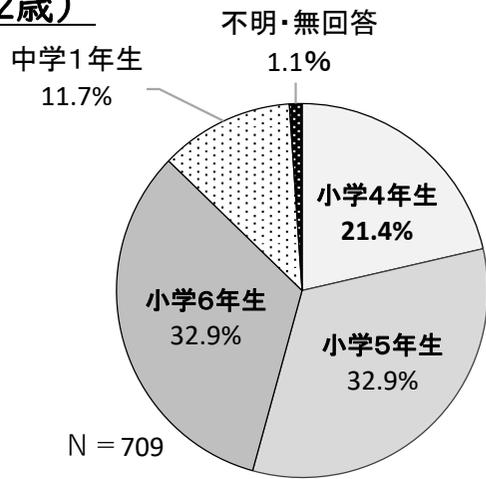
3 回収結果

対 象	対象数	回収数	回収率
【10～12歳】の子ども（a）	1,632	709	43.4%
【13～18歳】の子ども（b）	3,368	970	28.8%
【19歳以上】の市内在住者（c）	5,000	1,777	35.5%
子ども全体（a+b）	5,000	1,679	33.6%
合計（a+b+c）	10,000	3,456	34.6%

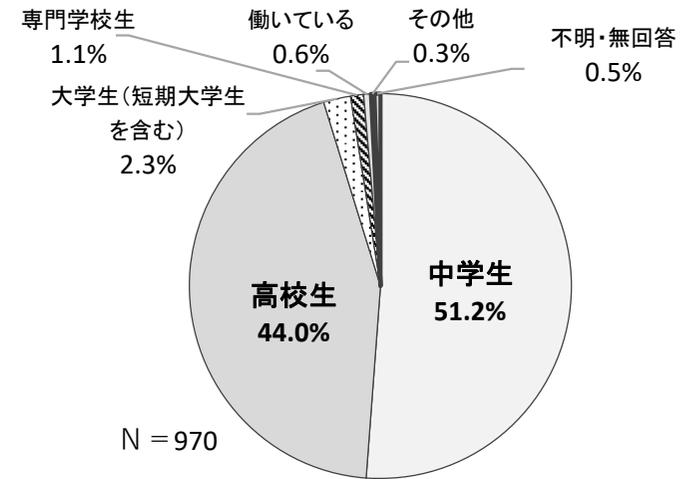
令和5年度 子どもに関する実態・意識調査結果【概要】

■回答者の状況（学年等）【子ども】

①子ども（10～12歳）

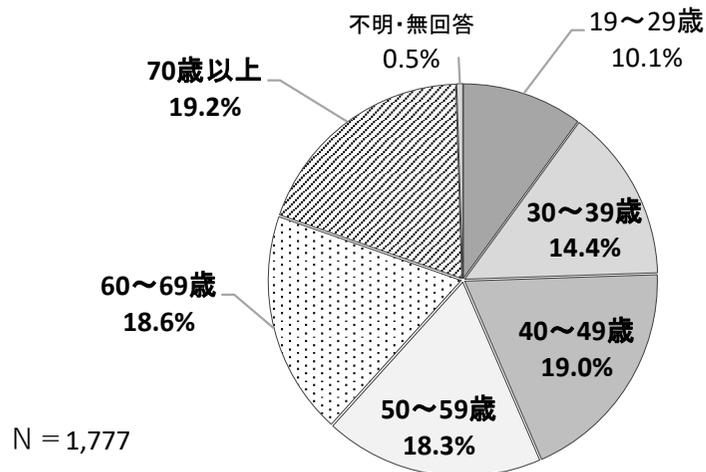


②子ども（13～18歳）

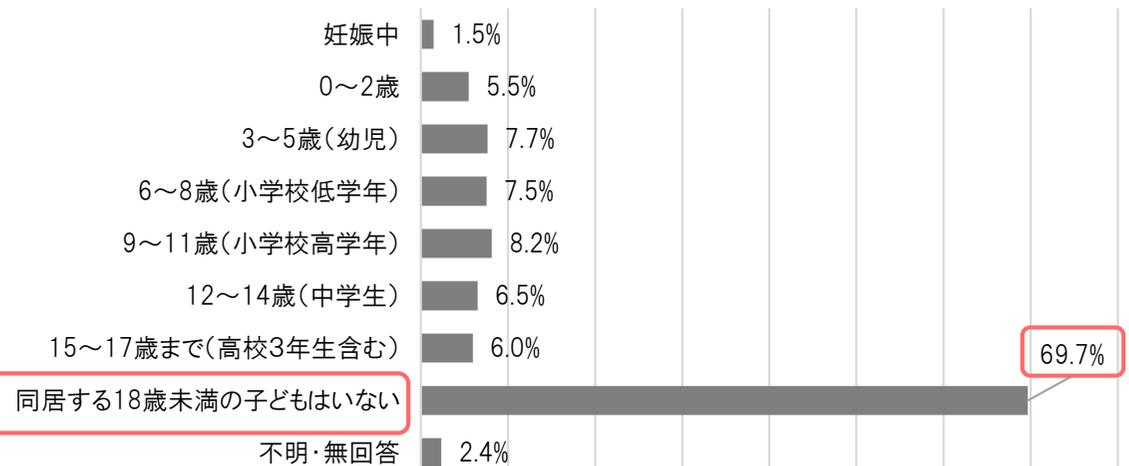


■回答者の状況（年代、同居の子どもの有無）【大人】

《問2》年代



《問3》同居している子ども有無（複数回答）



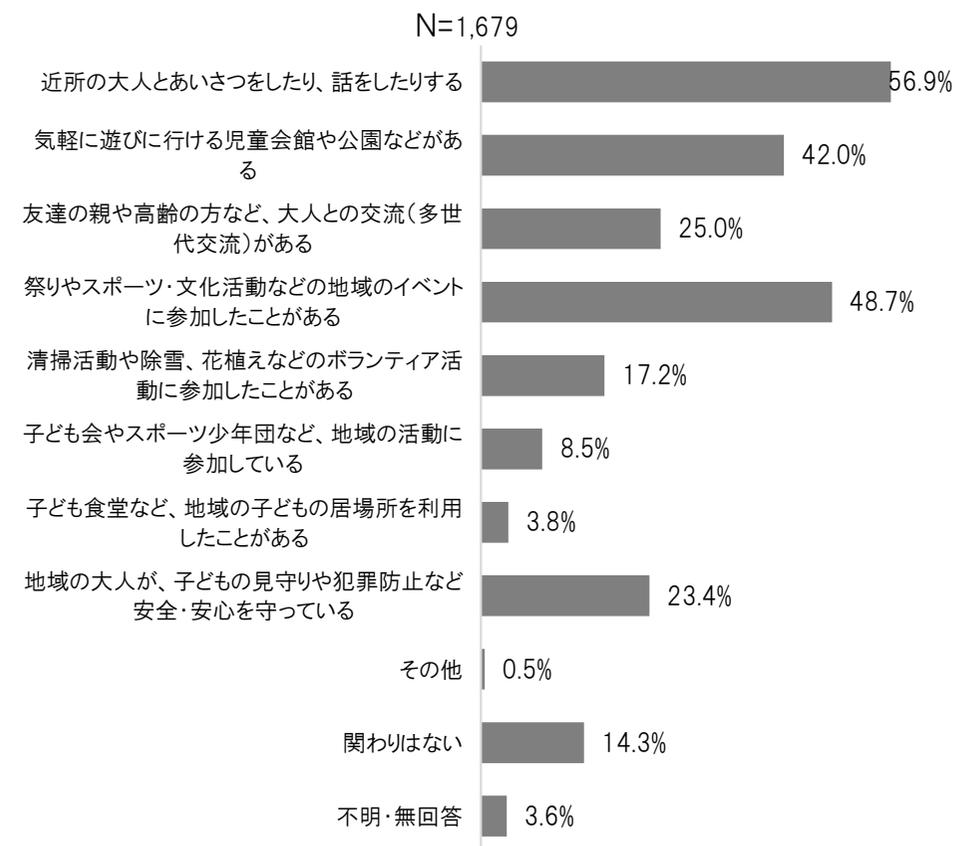
令和5年度 子どもに関する実態・意識調査結果【概要】

■地域の人たちとの関わり【子ども】

関わりがあると回答した子どもの割合が高く、近所の人との交流や地域のイベントへの参加が高い割合を示している。

地域と近所の関わりはあると感じている子どもが多い一方、約2割の子どもがつながりや地域の居場所が足りないと感じている。

《問7》 地域との関わりについて（複数回答）



【成果指標】

近所や地域とのつながりがある子どもの割合

(R6年度目標値：60.0%)



※推進計画の成果指標の状況は、次期計画策定の前年に実施する、子どもと19歳以上の市内在住者を対象とした「子どもに関する実態・意識調査」により把握しており、令和5年度は平成30年度以来5年ぶりに調査を実施。

よって、令和2年度から活用してきた、子どもと子どものいる世帯に限定した「子ども・子育てに関する市民アンケート調査」については、参考値として捉え、令和5年度は平成30年度の当初値と比較する。

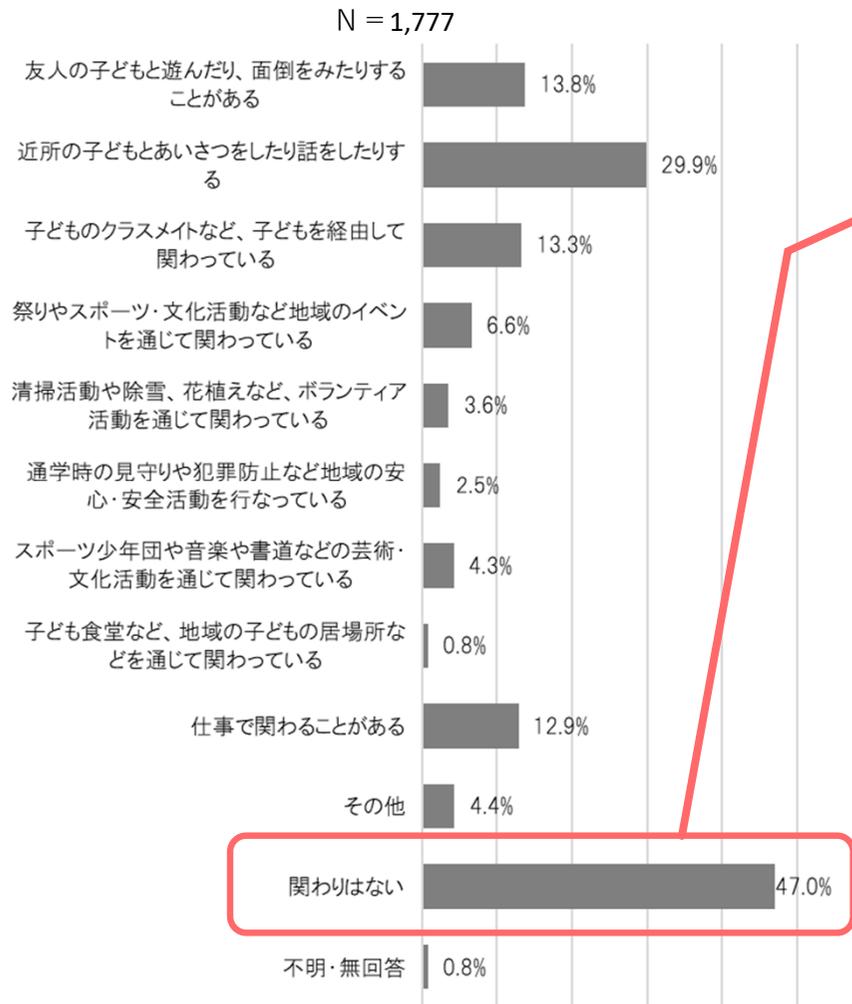
《問8》 子どもを対象とした参加や環境について（抜粋）

		全体	十分にある	少しある	十分ではない	特に必要ない	わからない
エ	地域の行事・イベントに参加する機会	1,679	482	593	220	81	272
		100.0	28.7	35.3	13.1	4.8	16.2
カ	まちづくりやボランティア活動に参加する機会（ゴミ拾いや除雪など）	1,679	401	539	340	74	300
		100.0	23.9	32.1	20.3	4.4	17.9
キ	地域や近所とのつながり	1,679	373	585	311	88	292
		100.0	22.2	34.8	18.5	5.2	17.4
ク	家庭や学校以外で気軽に過ごせる地域の居場所	1,679	460	469	347	83	294
		100.0	27.4	27.9	20.7	4.9	17.5

■地域の子どもとの関わり【大人】

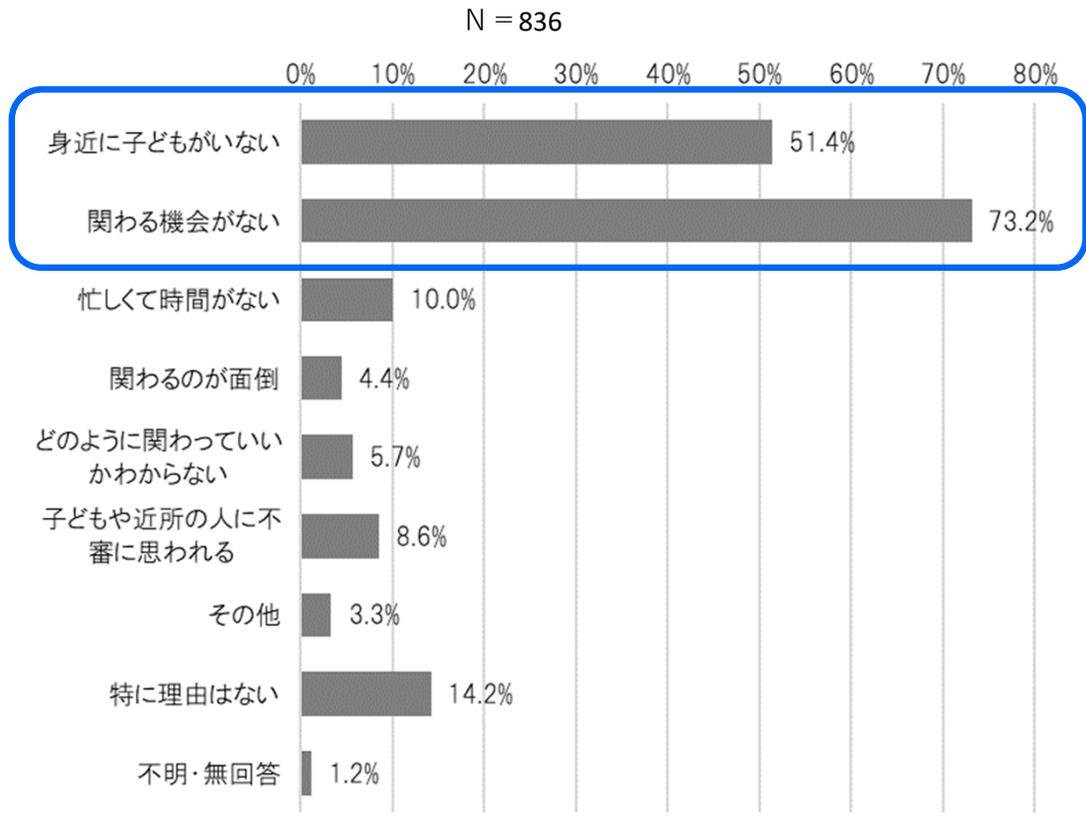
約半数の大人が、地域の子どもと関わりないと回答。その理由としては、関わる機会がない、身近に子どもがいないとの回答の割合が大半を占めている。

《問7》 地域の子どもとの関わり（複数回答）



問7で「関わりがない」と回答した人限定

《問8》 関わりがない理由（複数回答）



令和5年度 子どもに関する実態・意識調査結果【概要】

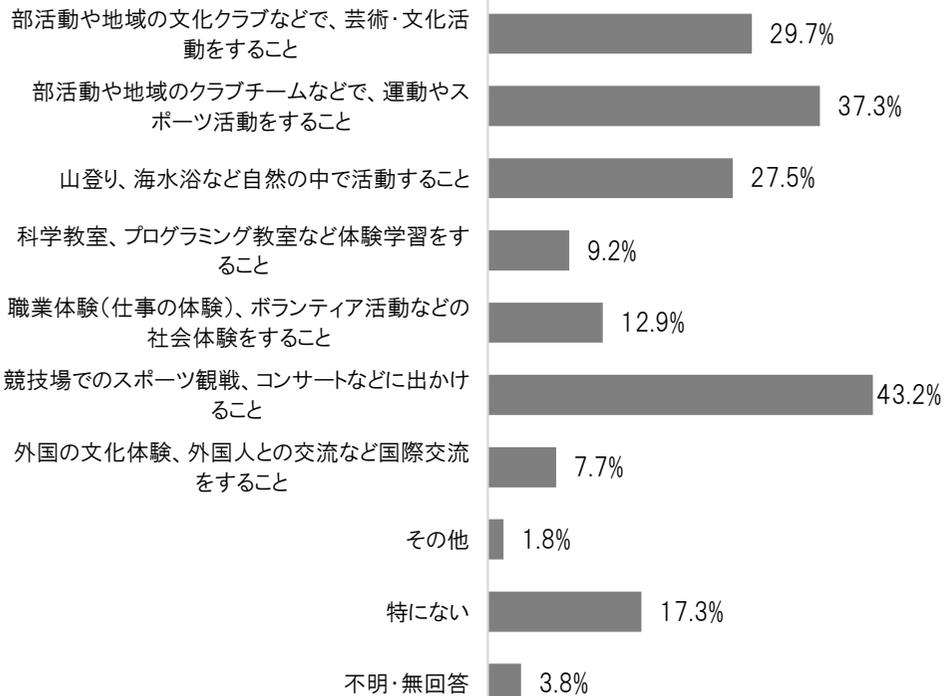
■子どもの参加・意見表明の機会【子ども】

子どもの参加の取組では、自然・文化・スポーツ体験は機会も多く、比較的足りているが、職業体験や社会体験、ボランティア活動の機会は十分ではないとの傾向。

また、意見表明の機会では、家庭や学校における意見表明の機会は比較的存在するが、地域や札幌市政については、「機会はない」や「特に言いたいことがない」の割合が高い。

《問6》学校外での参加・体験機会

N=1,679



《問8》子どもを対象とした参加の取組(抜粋)

		全体	十分にある	少しある	十分ではない	特に必要ない	わからない	不明・無回答
		上段:実数 下段:割合						
ア	自然と触れ合う体験	1,679 100.0	405 24.1	580 34.6	240 14.3	50 3.0	376 22.4	27 1.7
イ	文化・芸術に触れる機会	1,679 100.0	423 25.2	599 35.7	236 14.1	57 3.4	336 20.0	28 1.7
ウ	スポーツをしたり、観戦したりする機会	1,679 100.0	612 36.5	499 29.7	217 12.9	56 3.3	269 16.0	26 1.5
オ	職業や社会のしくみを学ぶ体験	1,679 100.0	311 18.5	543 32.3	391 23.3	54 3.2	352 21.0	28 1.7
カ	まちづくりやボランティア活動に参加する機会(ゴミ拾いや除雪など)	1,679 100.0	401 23.9	539 32.1	340 20.3	74 4.4	300 17.9	25 1.5

《問9》自分の考えや思いを伝える機会はあるか

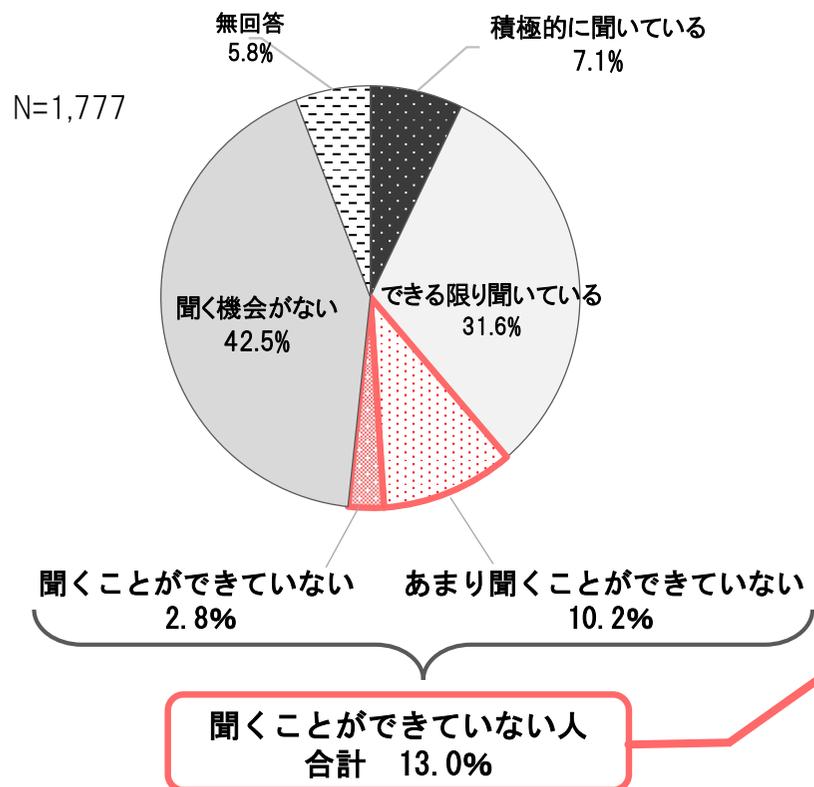
		全体	十分にある	少しある	機会はない	特に言いたいことがない	わからない
		上段:実数 下段:割合					
ア	家庭で大事な物事やルールについて	1,679 100.0	768 45.7	472 28.1	110 6.6	228 13.6	80 4.8
イ	学校の校則などの決まりごとについて	1,679 100.0	528 31.4	463 27.6	310 18.5	263 15.7	91 5.4
ウ	学校行事やイベントなどの企画や運営について	1,679 100.0	522 31.1	522 31.1	201 12.0	281 16.7	125 7.4
エ	地域で行われている行事などの取組について	1,679 100.0	164 9.8	311 18.5	453 27.0	439 26.1	285 17.0
オ	部活動や子ども会など、放課後や休日に参加する活動について	1,679 100.0	419 25.0	336 20.0	306 18.2	349 20.8	244 14.5
カ	札幌市のまちづくりなど、札幌市政について	1,679 100.0	125 7.4	217 12.9	498 29.7	374 22.3	438 26.1

■子どもの意見を聞く機会等について【大人】

子どもの意見を聞く機会については、約4割が聞いていると回答しているものの、1割超の方が聞くことができていないと回答している。

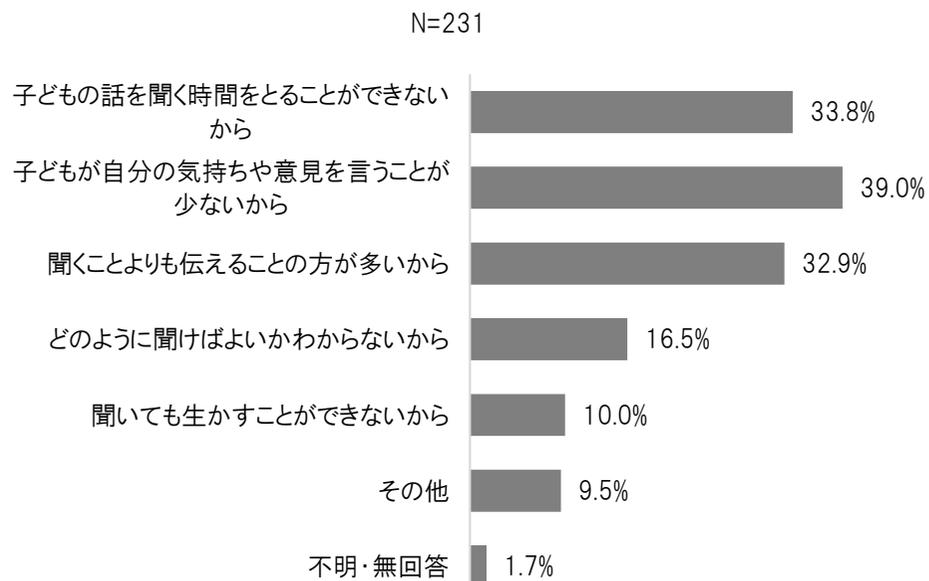
聞くことができていない理由では、「子どもが自分の意見を言うことが少ない」の割合が高くなっている。

《問12》子どもの意見を聞くことができていないか



【問12で「聞くことができていない」と回答した人限定】

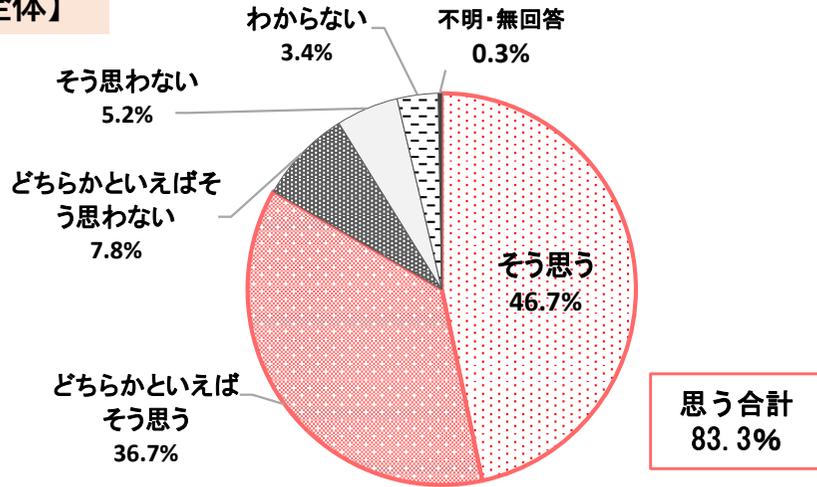
《問13》聞くことができていない理由（複数回答）



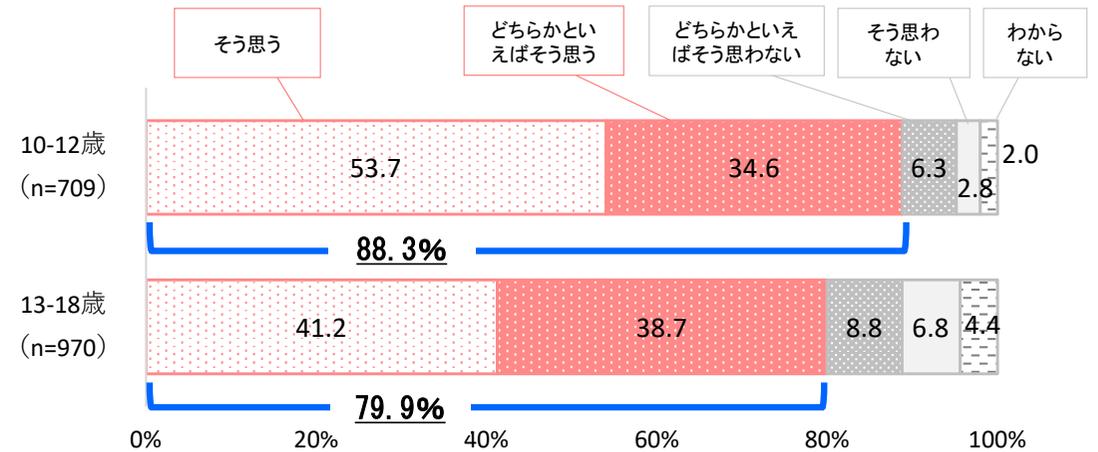
■自分自身のこと【子ども】

《問13 ア》毎日が充実していて楽しい

【全体】

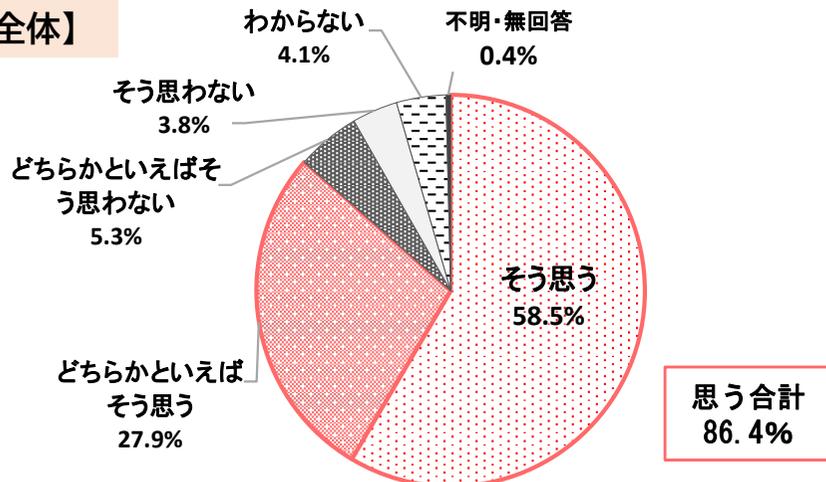


【年齢別】

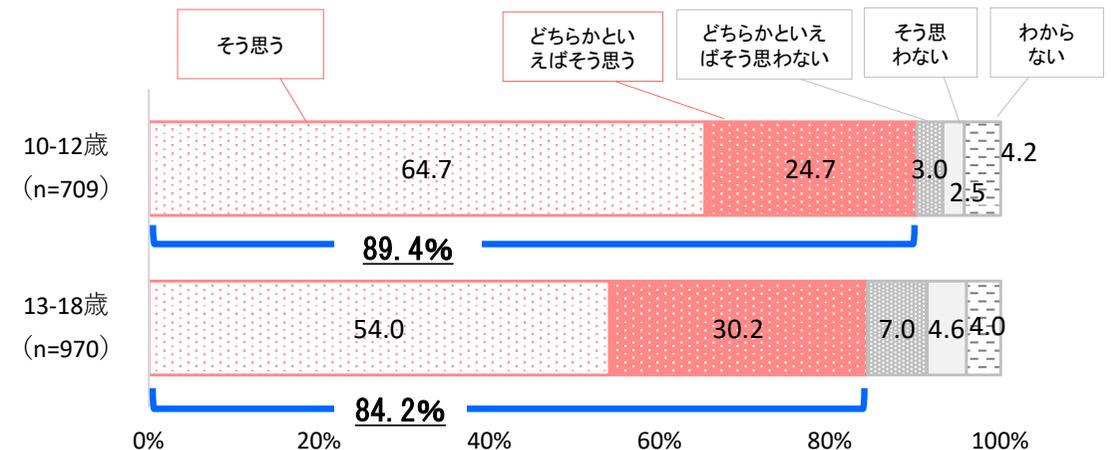


《問13 イ》自分のことを理解してくれる人がいる

【全体】



【年齢別】



■自分自身のこと【子ども】

《問13 ウ》今の自分のことが好きだ

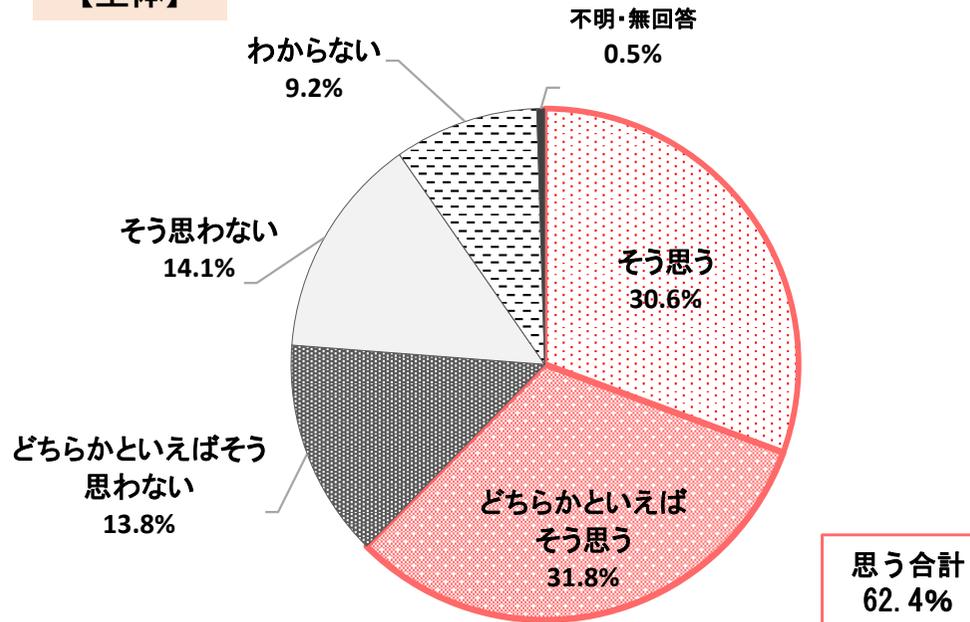
自分のことが好きだと思う子どもの割合は全体の約6割と比較的高くなっているが、当初値よりも低下。年齢別では、年齢が上がるにつれて「そう思わない」の割合が上がっている。

【成果指標】

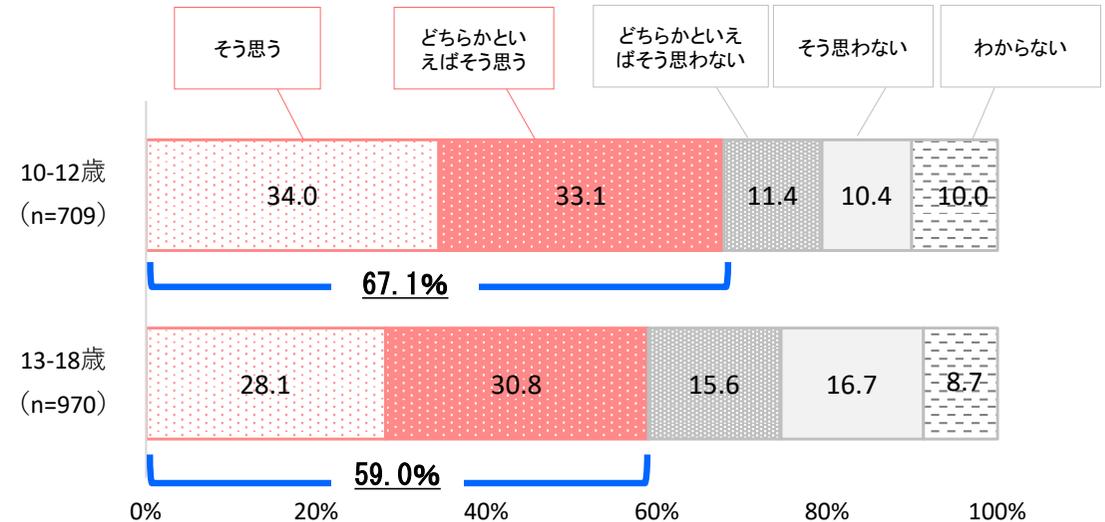
自分のことが好きだと思う子どもの割合
(R6年度目標値：80.0%)



【全体】



【年齢別】

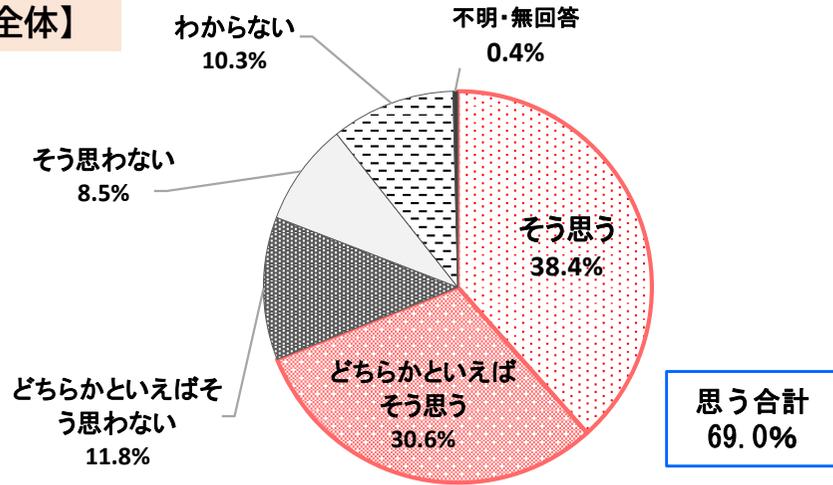


令和5年度 子どもに関する実態・意識調査結果【概要】

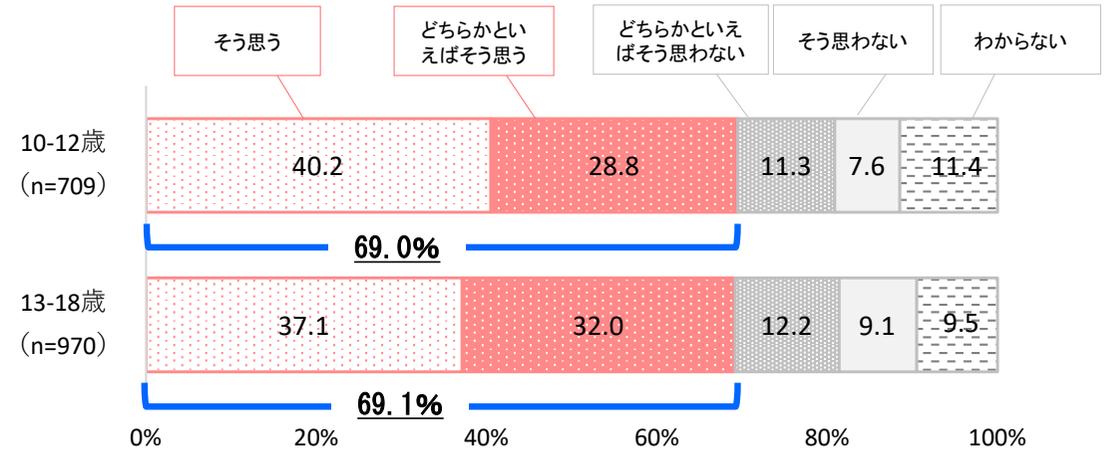
■自分自身のこと【子ども】

《問13 エ》自分には様々な可能性があると思う

【全体】

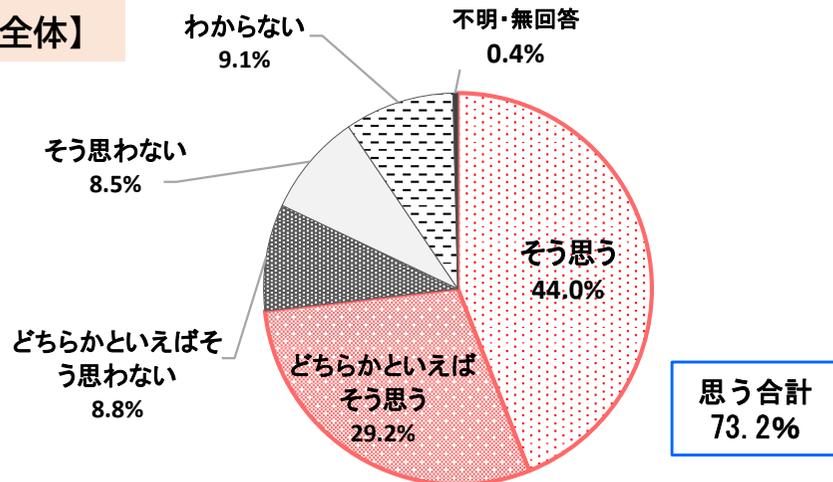


【年齢別】

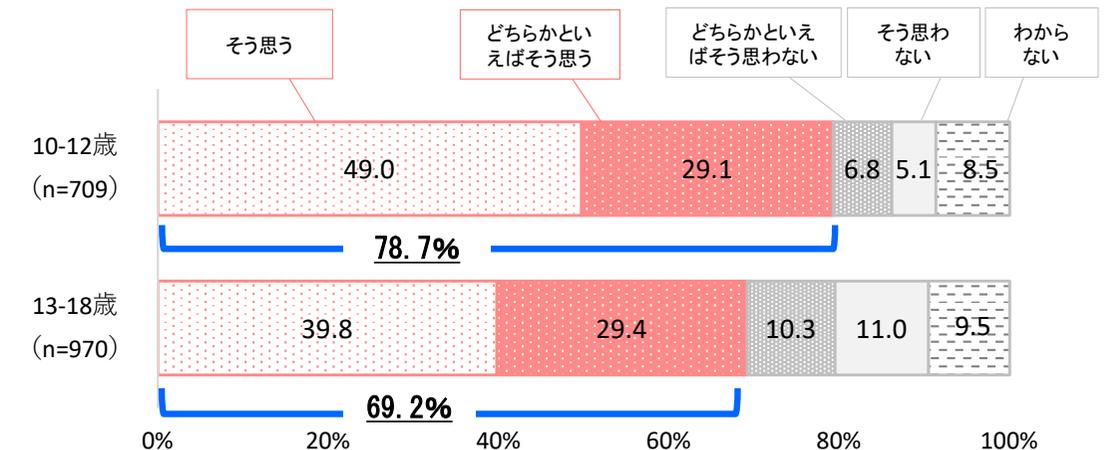


《問13 オ》自分という存在を大切に思える

【全体】



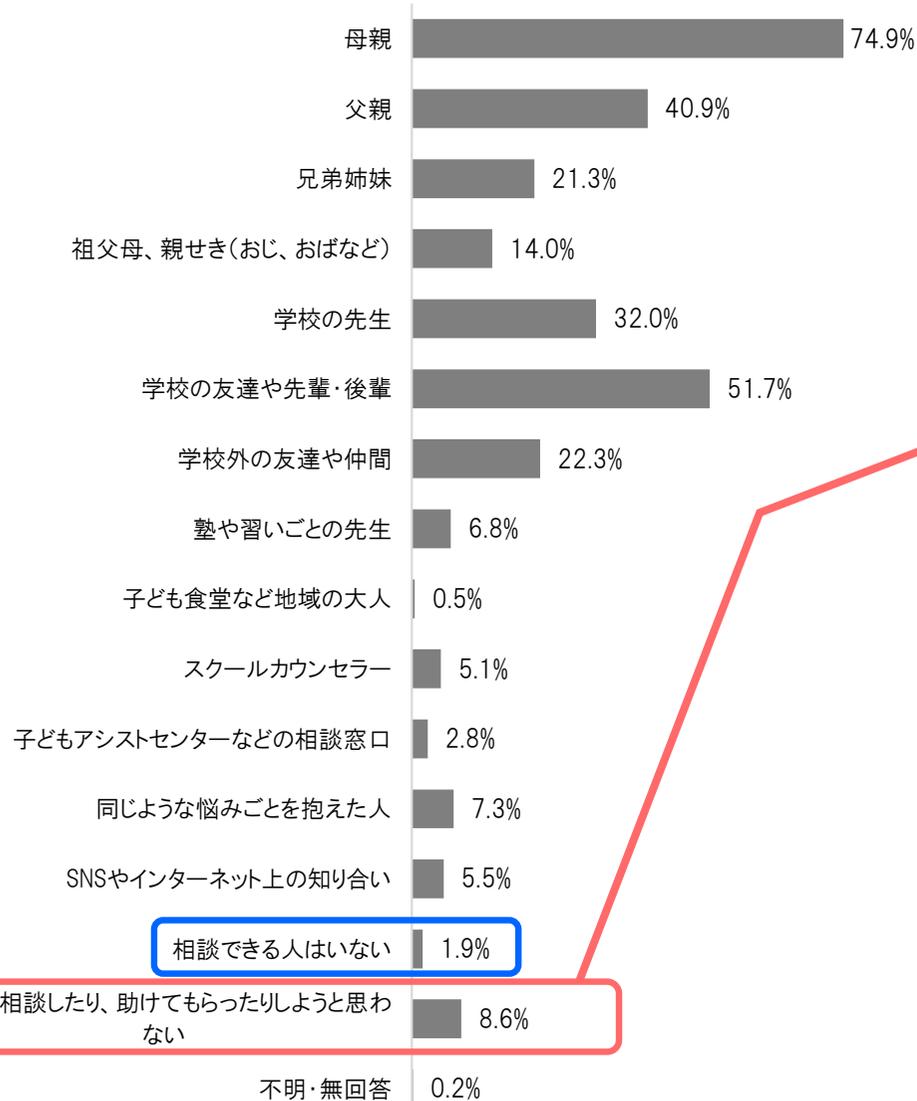
【年齢別】



■悩みや困りごと相談相手【子ども】

《問16》 悩みごとの相談相手（複数回答）

N=1,679

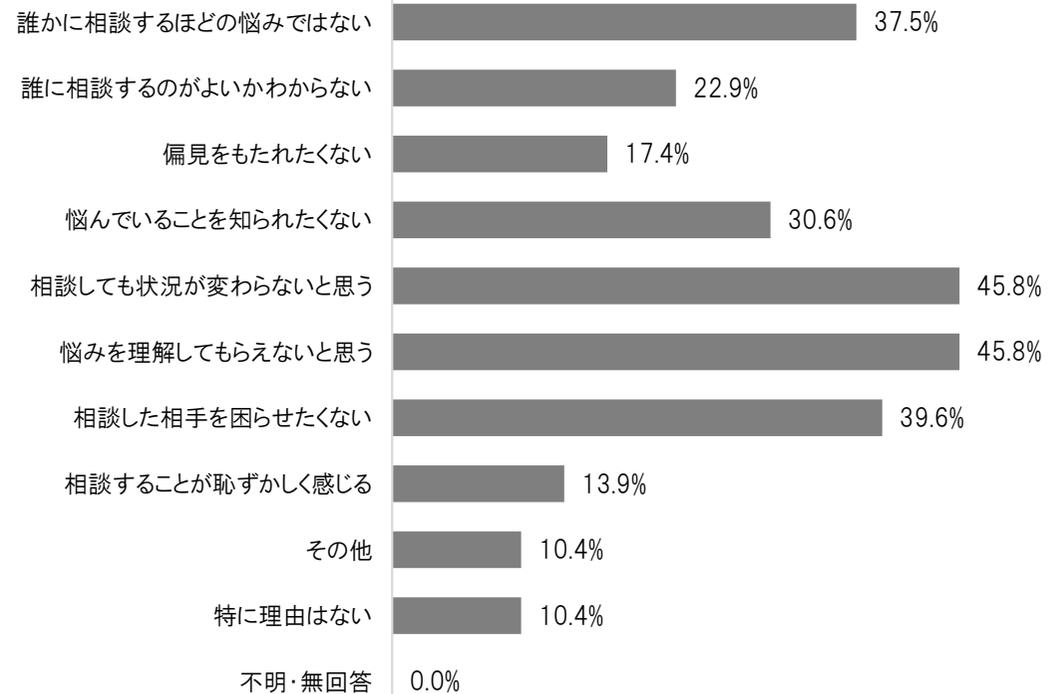


相談する人がいないとの回答は約2%と、大半の子どもは相談できる環境にある一方で、誰にも相談しないと回答した子どもが一定数おり、その理由は相談しても状況が変わらない、悩みを理解してもらえないが上位となっている。

問16で「誰にも相談したり、助けてもらったりしように思わない」と回答した人限定

《問17》 相談しように思わない理由（複数回答）

N=144



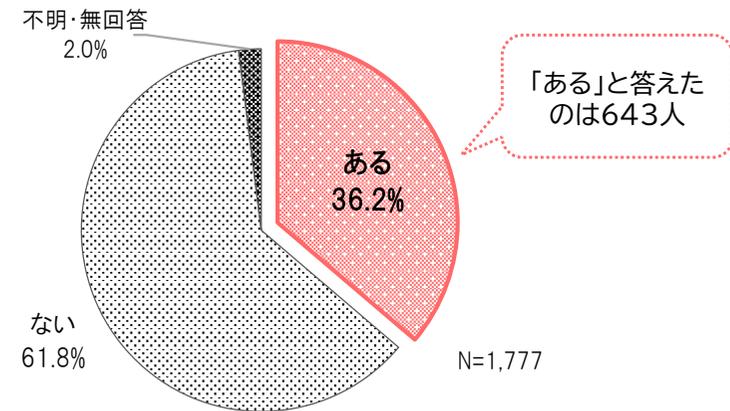
■子どもから相談を受けた経験【大人】

大人の約36%が子どもからの相談を受けた経験があり、その多くは自分の子からの相談であるが、仕事で関わる子どもを始めとする、地域の子どもたちからの相談も相当数あることがうかがえる。

その相談への対応方法としては、話を聞いたの割合が高いが、アドバイスや学校との連携など、直接的な支援を行った回答も多かった。

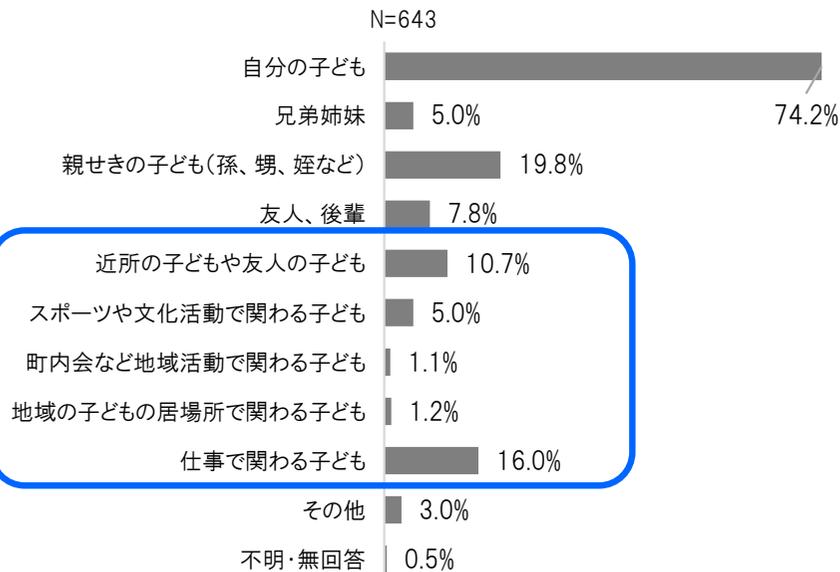
しかしながら、少数ではあるが相談先や連携先がわからなかった、何もできなかったという回答も見られている。

《問15》 子どもから相談を受けた経験の有無

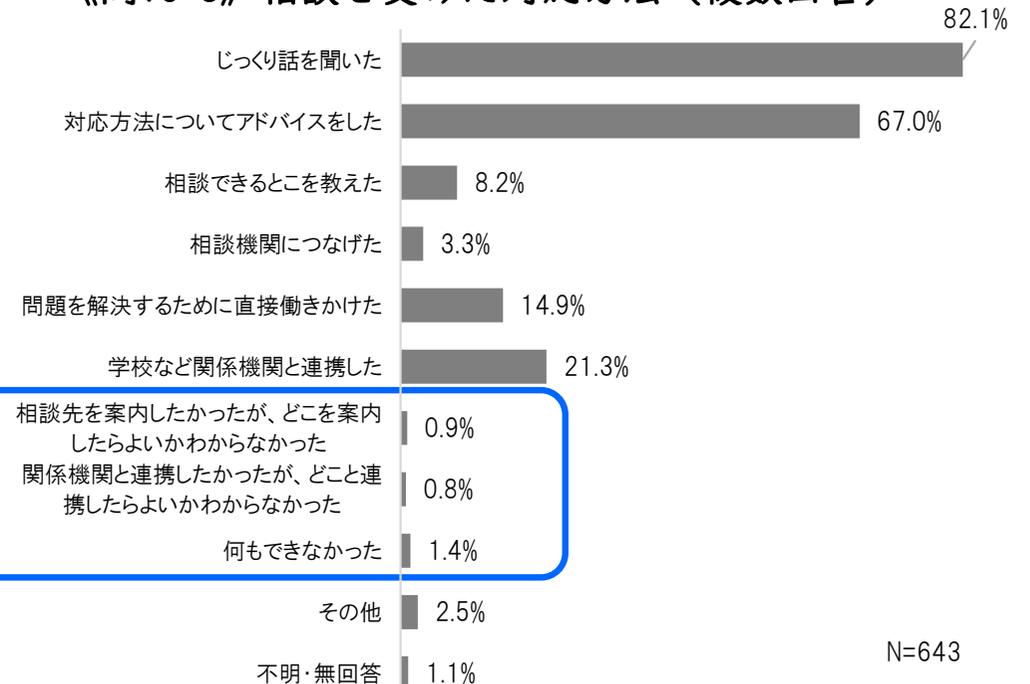


問15で「相談を受けた経験がある」と回答した人限定

《問16-1》 相談を受けた子ども（複数回答）



《問16-3》 相談を受けた対応方法（複数回答）

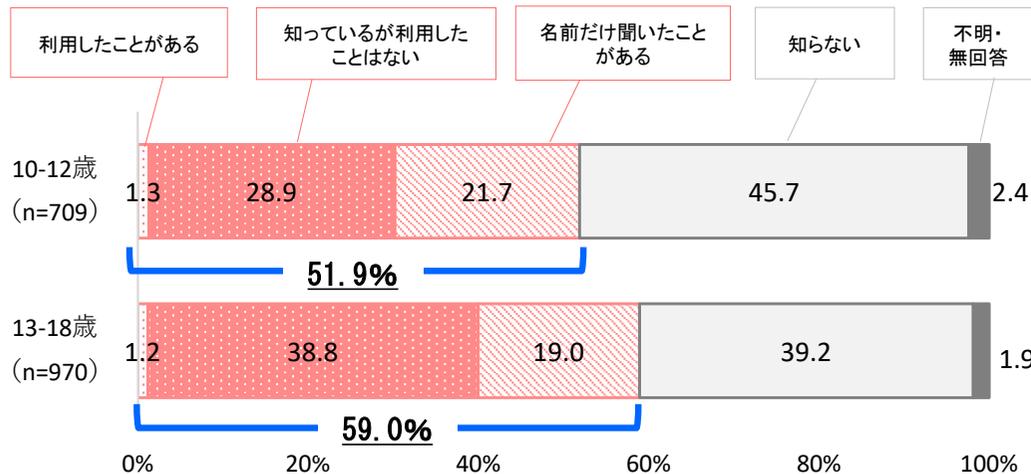
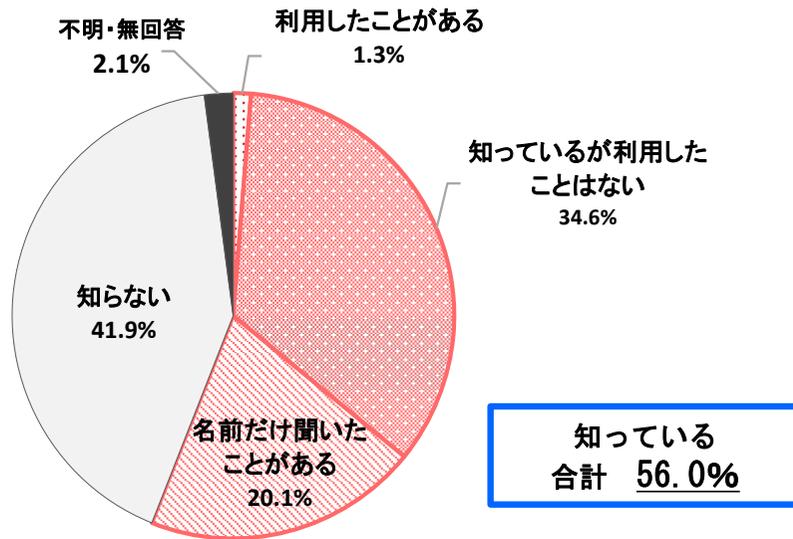


令和5年度 子どもに関する実態・意識調査結果【概要】

■相談機関の認知度（子どもアシストセンター）

《問18》 子どもアシストセンター（子どもの権利救済機関） を知っているか

【子ども】

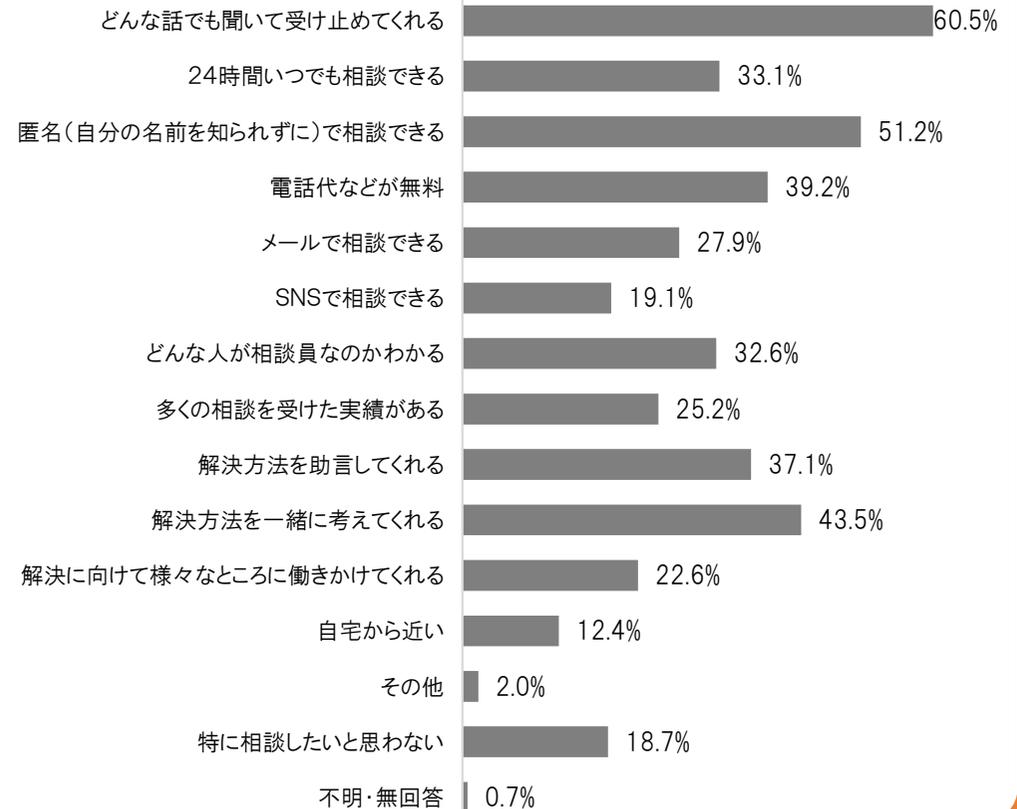


子どもアシストセンターを約半数の子どもが知っているという回答しており、10-12歳より13-18歳の方が高い。

相談機関へは、相談の手段よりも対応姿勢に関する要請が多く、話を聞いて受け止め、一緒に考えてくれる寄り添い型の相談対応と、匿名性が求められている。

《問19》 どのようなところであれば相談したいと思うか

N=1,679

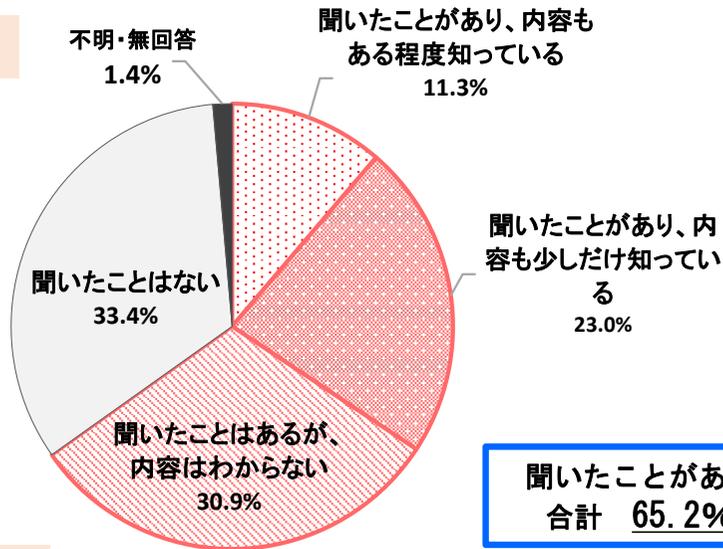


■子どもの権利の認知度【子ども】

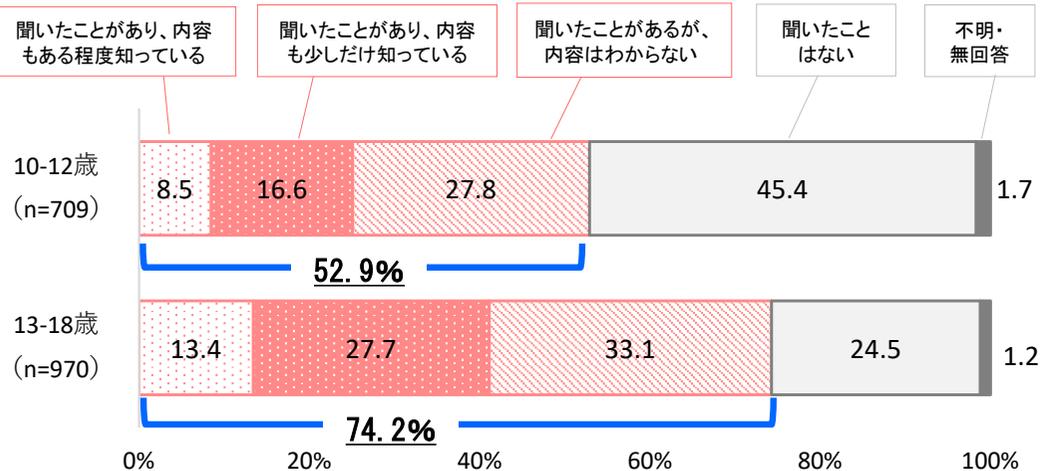
《問20》「子どもの権利」の認知度

【全体】

N = 1,679



【年齢別】



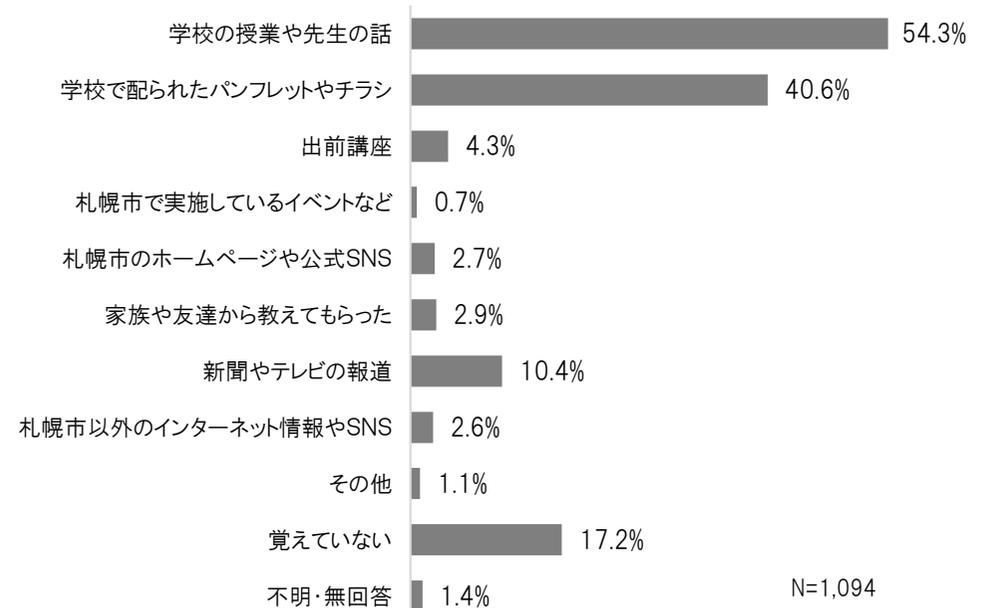
【成果指標】

子どもの権利についての認知度【子ども】
(R6年度目標値：75.0%)



問20で「聞いたことがある」と回答した人限定

《問21》「子どもの権利」を何で知ったか



■子どもの権利の認知度【大人】

子どもの権利を約半数の大人が聞いたことがあると回答。当初値よりも低下している。

年代別では19-20代、30代の若年層が、状況別では同居する子どもがいる、地域の子どもの関わりがある人で「聞いたことがある」の割合が高くなっている。

特に、地域と関わりの有無による、認知度の差が顕著となっている。

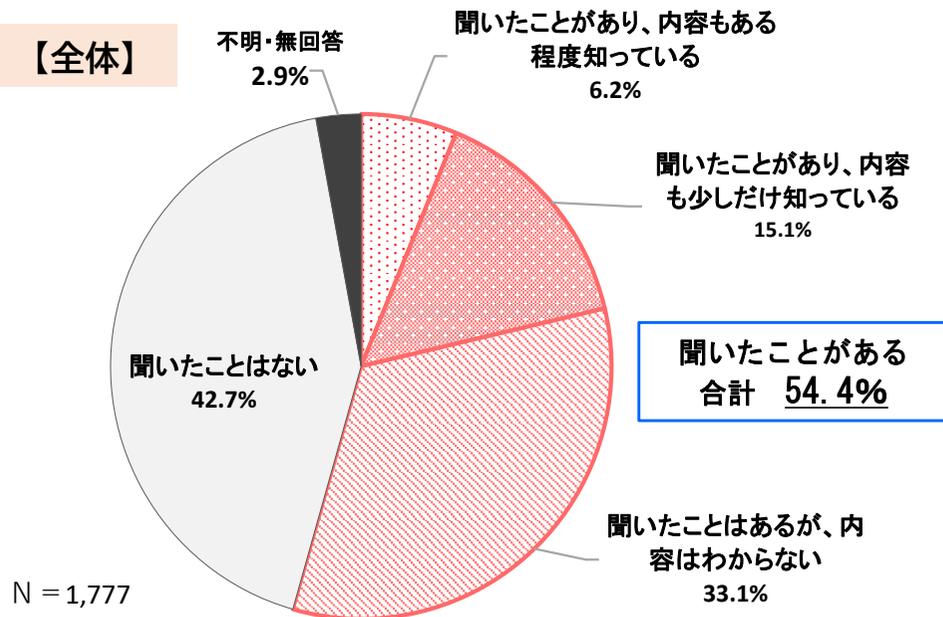
【成果指標】

子どもの権利についての認知度【大人】
(R6年度目標値：75.0%)

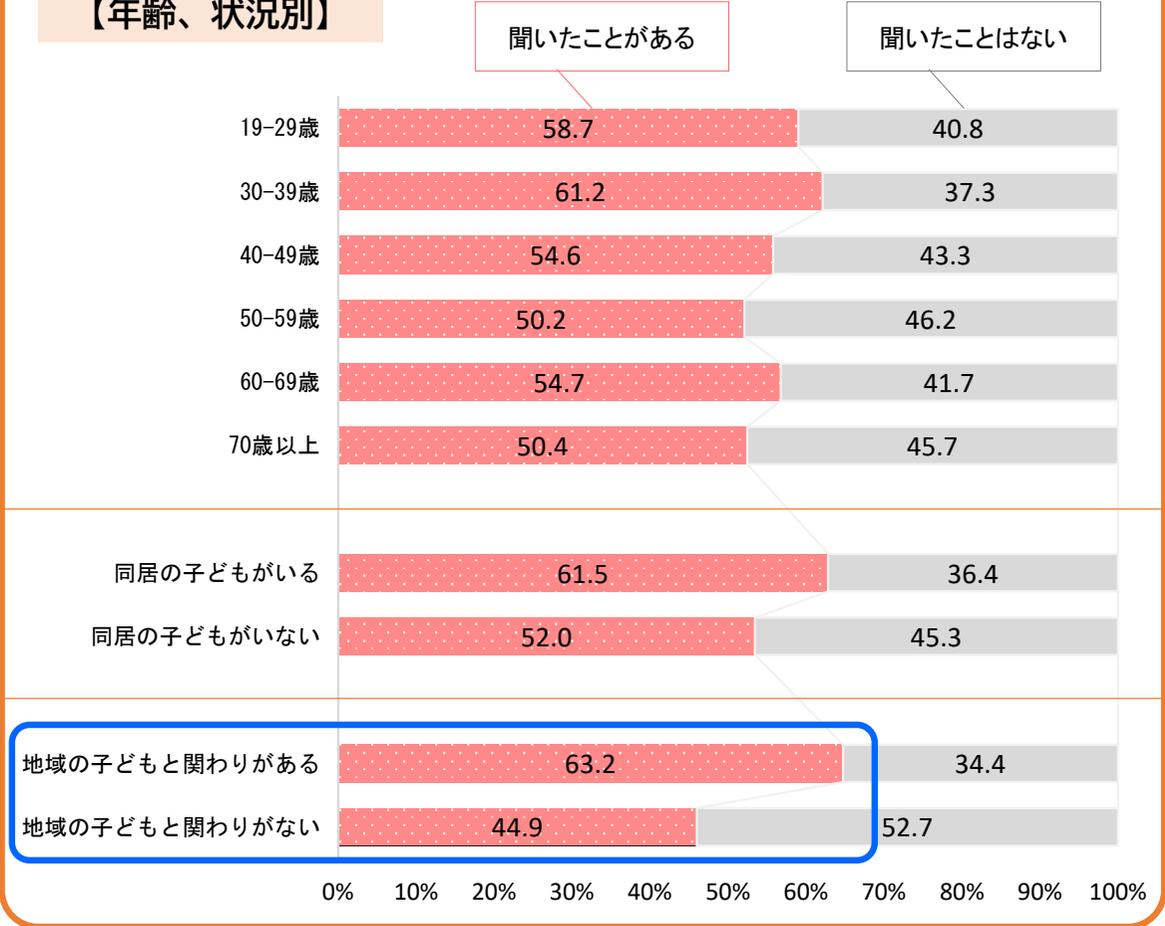


《問19》 「子どもの権利」の認知度

【全体】



【年齢、状況別】



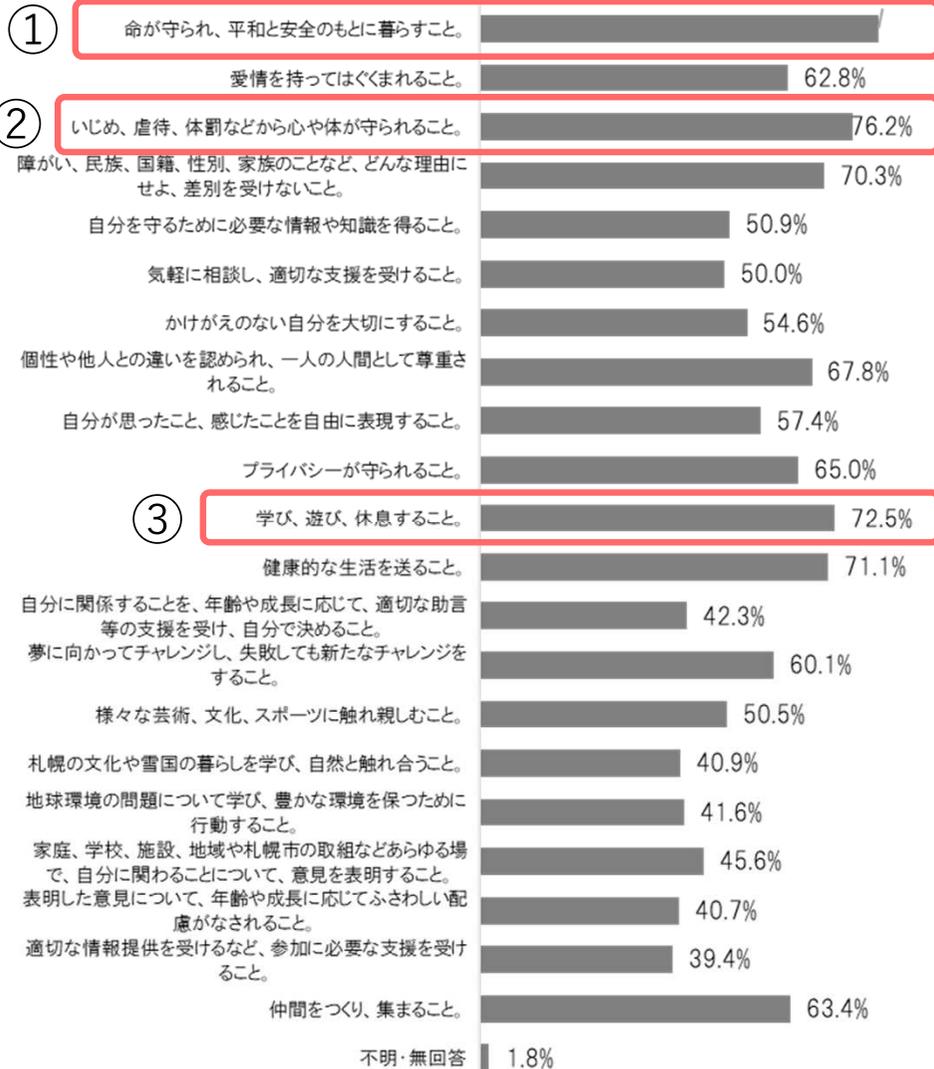
■大切にしてほしい権利

【子ども】

《問23》大切にしてほしいと思う権利（複数回答）

N=1,679

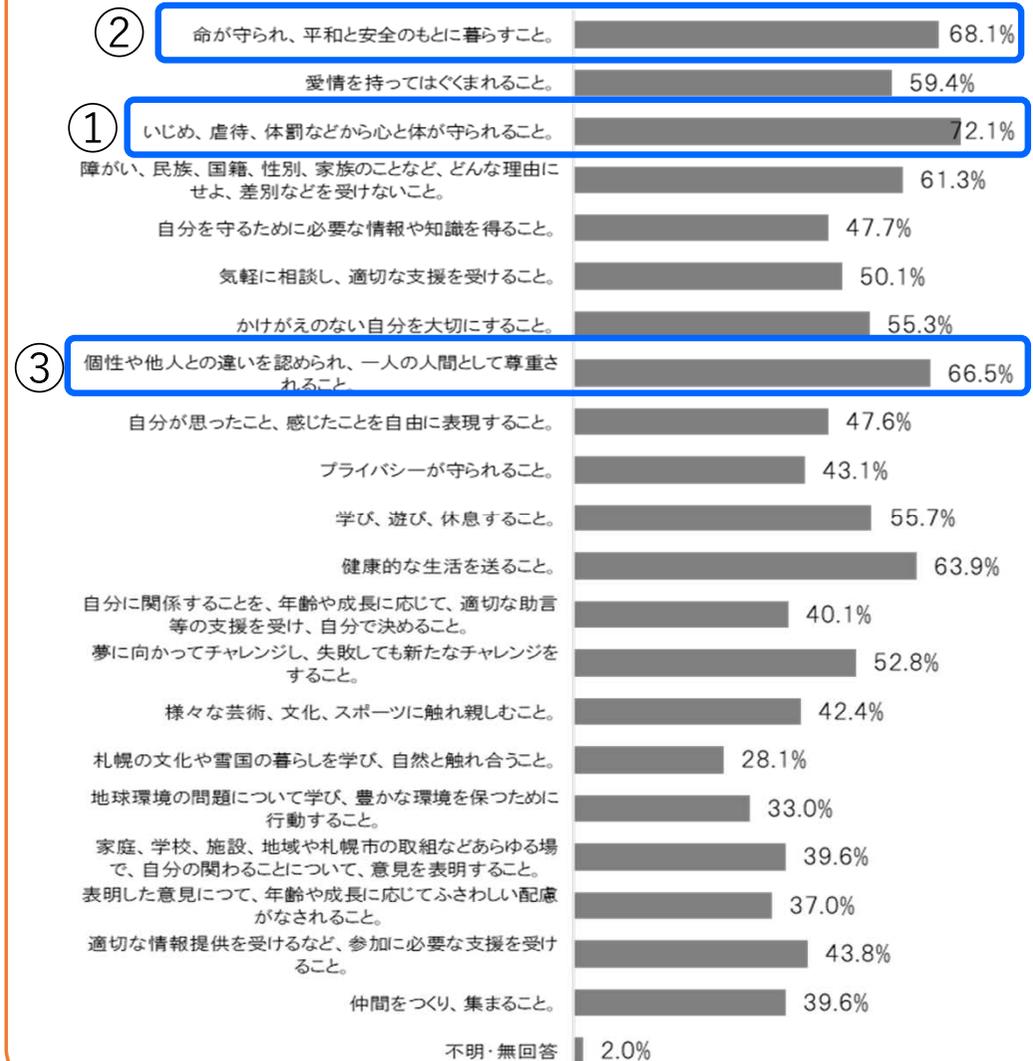
81.3%



【大人】

《問22》大切にしていく必要がある権利（複数回答）

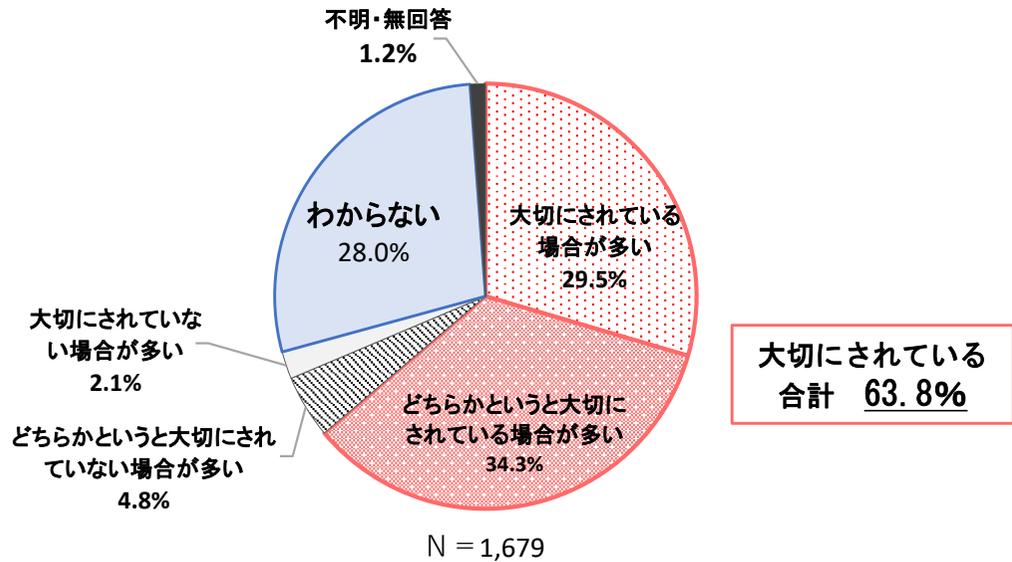
N=1,777



令和5年度 子どもに関する実態・意識調査結果【概要】

■子どもの権利が大切にされているか【子ども】

《問24》子どもの権利が大切にされているまちだと思うか

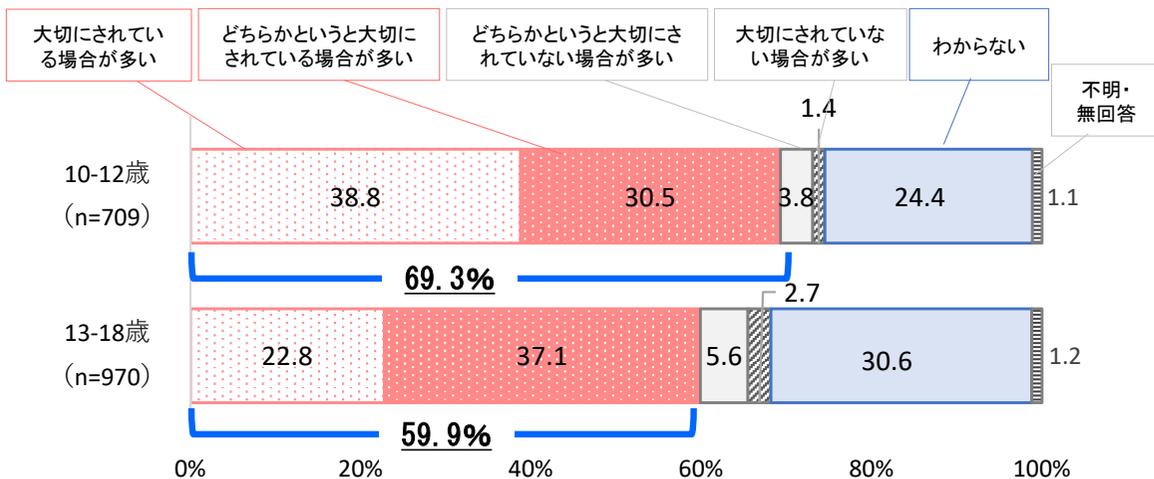
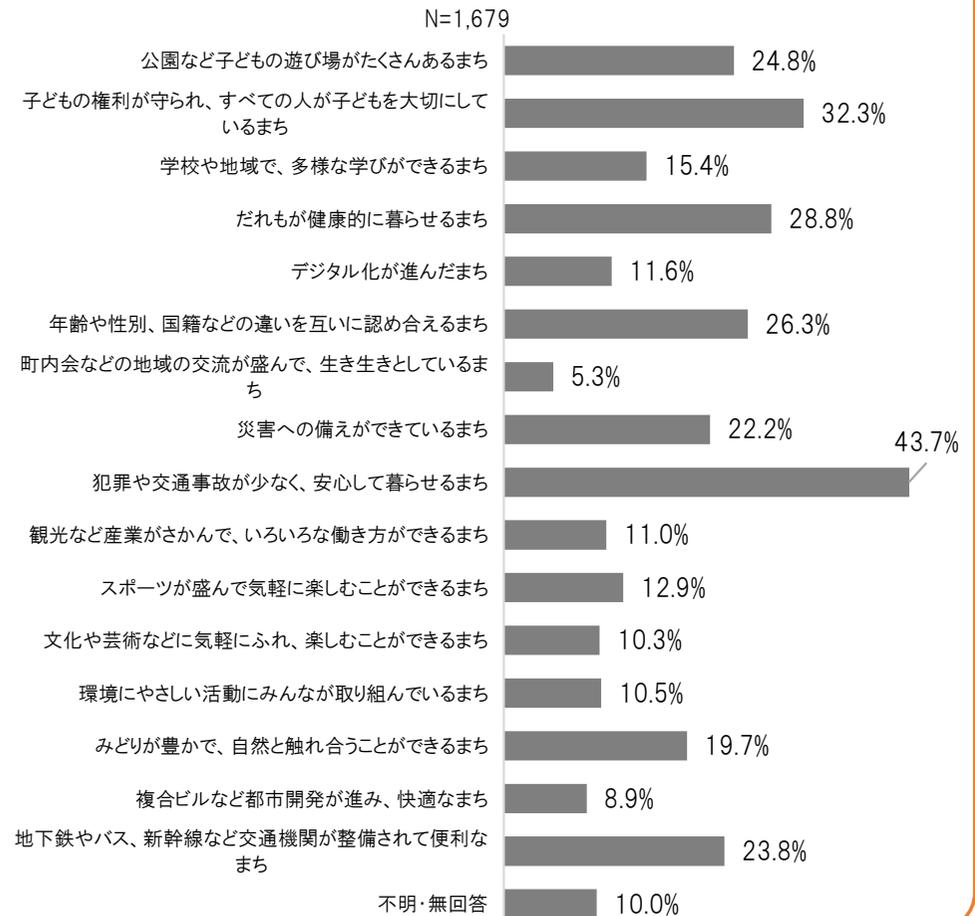


【成果指標】

子どもの権利が大切にされていると思う人の割合
(R6年度目標値：70.0%)



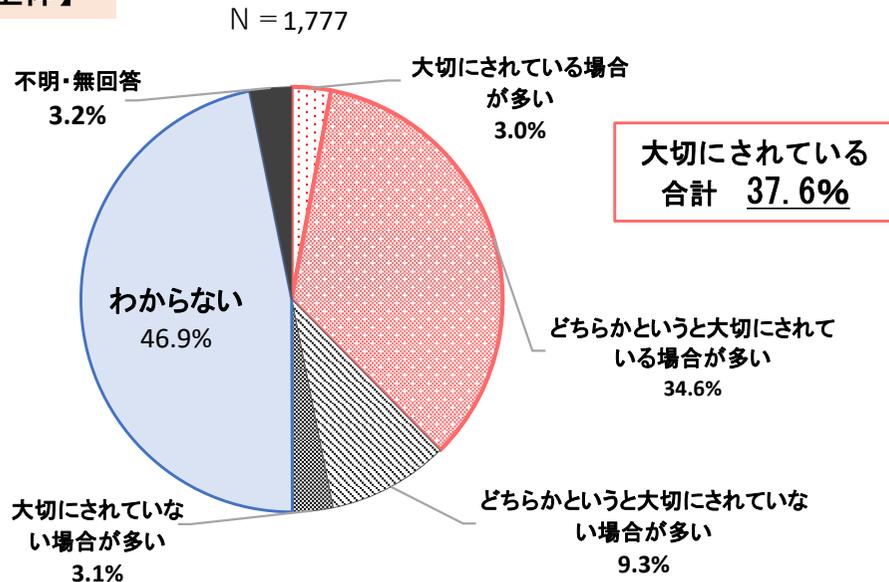
《問25》どのようなまちになってほしいか



■子どもの権利が大切にされているか【大人】

《問24》子どもの権利が大切にされているまちだと思うか

【全体】



【成果指標】

子どもの権利が大切にされていると思う人の割合
(R6年度目標値：65.0%)



子どもの権利が大切にされていると思う大人の割合は当初値よりも低下。わからないとの回答が半数近くを占めている。

年齢・状況別では、地域の子どもの関わりがない大人で、特にわからないの回答割合が高くなっている。

【年齢・状況別】

